

＝ 普 及 情 報 ＝

No. 30

令和7年1月31日

隠岐支庁 農林水産局 農業振興部

標題 「産直出荷チャレンジ塾」で収穫した野菜を量販店、直売所へ初出荷。

(ダイジェスト)

令和6年7月12日に開講した産直出荷チャレンジ塾では、実習で栽培した野菜の販売体験も取り入れています。このたび実習で栽培した野菜を、地元の量販店、直売所に初出荷しました。受講生自らポップや手書きのシールを作成するなど、工夫を凝らした販売にもチャレンジしました。

出荷した野菜は完売し、受講生は今後の継続した出荷に意欲を示しています。

令和6年7月12日に園芸生産者の裾野を広げる取組みとして、栽培から出荷までを体験する講座「産直出荷チャレンジ塾」を開講し、3名の受講生を対象に農業の基礎知識について座学を行いました。その後、実習で栽培する品目について受講生と協議を行い、隠岐地域で需要があり、初心者でも栽培がしやすいカブとジャガイモを実習品目として選定しました。

栽培の実習は播種作業から行い、各品目の主要となる作業をその都度集まって行いました。

収穫時期を迎えたタイミングで、量販店、直売所の店長と相談をしながら、出荷についても検討しました。量販店との打合せでは、改めて地元産野菜の需要が高いことが分かっただけでなく、袋詰めや値段の決め方、減農薬で栽培された野菜のニーズがある等の情報収集を行うことができ、実際の出荷に向けた参考となりました。

収穫・調製作業については11月22日に座学を行い、調製資材、袋詰め等の説明をし、翌週の11月28日に量販店へ初出荷、12月18日に直売所と量販店へ2回目の出荷をすることができました。出荷時にはシールやポップを活用したPRも行い、完売につながりました。

受講生からは、調製作業に手間がかかり大変だったとの意見も出ましたが、実際に栽培、出荷の体験をしてみて「来年もみんなで作ってみよう」といった栽培・出荷に対する前向きな意見も出たため、新たな生産者の確保につながる可能性のある取組みとなりました。

2月には春作の実習に向けた検討会を予定しており、それぞれの受講生が独り立ちし自ら出荷できるよう、引き続き支援を続けていきます。



ジャガイモの収穫作業 12/10



量販店へ出荷 11/28



直売所へ出荷 12/18

6

担当者

隠岐地域振興第一課

古木 厚人

電話 08512-2-9681